

Anzu Journal

No. 35



杏林大学総合政策学部杏会

Anzu Journal

No. 35

Contents

【冒頭言】	これからの学部教育について	02
【応援しますあなたの学生生活】	一人一人の学生さんと向き合って	04
	魅力あるキャンパスが充実したキャンパスライフを実現する!	06
【総合政策学部とキャリア支援】	大学と、就職のための力	08
	キャリアサポートセンターの紹介	10
	内定者座談会	12
	留学学生紹介	16
【地域交流委員会】	地域交流委員会より	18
【学生の活躍】	情報誌「みたから」	20
	成績優秀学生の紹介	22
【新任教員紹介】	大西 健司	24
	伊波 浩美	25
【杏林大学での学び】	プレゼミナール紹介	26
	ゼミナール紹介	28
	ゼミ合宿 一国内一	36
	ゼミ合宿 一海外一	37
【ゼミナール連絡会】	新入生懇親会開催	38
	学園祭	40
【杏会より】	井澤 吉男	42
	総合政策学部 杏会総会開催	43
【杏門会より】	平本 実	44

編集後記

これからの 学部教育について

学部長 教授

大川 昌利

早いもので、総合政策学部は2019年4月からは井の頭キャンパス移転後4年目を迎えることとなります。ほとんどの在校生諸君は、もはや八王子キャンパスで過ごした経験が無く、井の頭キャンパスを学生生活の中心としてきた諸君ということになるわけです。

こうした節目を迎えた段階で、今後の学部教育を改めて展望しますと、総合政策学部のような社会科学系の学部に求められている課題や役割は、わが国の社会環境の最近の変化を映じて一段と多様化し、また高度になっているのではないかと思います。

例えば、グローバル化の進展は国家間の垣根を低くし、人的・物的な相互交流を飛躍的に拡大させてきましたが、これによって得

られた利益は一部に集中し、国際的にも、また各国国内においても格差の拡大という重大な問題を惹起しております。また、AI(人工知能)の発達やIoT(物のインターネット)やビッグデータ等の活用による情報化の進展は、社会生活の様々な局面における一層の効率化を可能にするものと思われる一方で、個人情報保護の必要性や人々の就業構造の変化といった大きなインパクトを我々の社会生活に及ぼすことが予想されます。

こうした中で、総合政策学部では、社会科学を学際的に教育する学部として、これらの新たな動向を学生諸君に対する教育の内容に反映させていくことが必要不可欠であり、だとすれば、現在の



カリキュラムの見直しを進め、時代の流れに即した教育内容を鋭意準備して参りたいと考えております。

このようなカリキュラムの見直しに際しましては、既存のカリキュラムの成果を虚心坦懐に評価し、見直しの有効性につなげて行くことも必要です。総合政策学部の前身である社会科学部以来の学際教育の在り方についても、現行のコース制の運用は適切かどうか、また各コースで提供している科目は必要十分かどうか、またGCP（グローバル・キャリア・プログラム）を中心に展開してきたグローバル教育は所期の成果を上げていると言えるか。こうした諸点に対し、評価をきちんとして行ったうえで、場合によっては大胆な見直しも視野に入れて新たなカリキュラムにつなげて参りたいと考えています。

また、わが国では、いわゆる18歳人口の減少を視野に入れた大学教育の見直しが進められていますが、その重要な要素である入試改革についても早急な検討が求められています。

また、わが国では、いわゆる18歳人口の減少を視野に入れた大学教育の見直しが進められていますが、その重要な要素である入試改革についても早急な検討が求められています。個々の大学にとっては、学部教育の将来像と入試の在り方とは切っても切れない関係にあり、私どもとしても、来たるべき未来社会で活躍する有為な人材の育成に資するためには、どのような入試を行うべきか検討を重ねております。

杏会の皆様におかれましては、こうした学部教育の方向性につき益々のご支援・ご協力を頂けますようお願い申し上げます。

一人一人の学生さんと 向き合って



教務部長 教授
伊藤 敦司

井の頭キャンパス移転に際し導入した、学際的教育、グローバル教育及びキャリア教育の強化を柱とした新カリキュラムも3年間が過ぎようとしており、卒業生を送り出すための仕上げの時期となってきました。学際教育に関しては、学生各自の専門領域の学習を基礎としながら、複数の教員による演習形式の学際演習の履修を通じて、問題の発見・解決のための多角的な視点が養われているようです。グローバル教育に関しては、語学教育の充実を背景に、GCP履修学生をはじめとして留学をする学生が増加しています。キャリア教育に関して、2年連続就職率100%という数字にその成果が表れていると思います。

ところで、私の3人の息子たちは小学生時代、地域のソフトボールチームに参加し、私も監督やコーチの立場で子供たちと楽しんでいました。下の双子が6年生の時、現在ソフトバンクホークスの監督である工藤公康さんが特別コーチとして指導をしてくださる機会がありました。100名以上の小学生を相手にコーチをしてくださったのですが、その際、私の息子に対し、「あれ、君はさつきも別のグループにいなかった？」とおっしゃいました。それに対し、周りの大人たちが「彼は双子の一人で、さつきの子は兄弟です」と話し、工藤さんも納得されていました。多くの子供たちを相手にしているにもかかわらず、一人一人の子供を大切に指導してください



ていたのです。教育に携わる私にとっては、非常に印象深い出来事でした。それからは、学生さんたちと接するにあたり、このことを思い出すようにしています。本学部では創立当初から「person to person」の理念のもと、一人一人の学生を大切に教育することを目指してきました。1年次のプレゼミナール、2年次以降の演習を中心として少人数教育の場を多く確保しています。本年11月4日に、本学部卒業生の同窓会である杏門会30周年記念の「卒業生の集い」が開催され、多くの卒業生が参加してくれました。卒業生が大学時代を振り返って話をしてくれる機会があり、そのなかで、大学時代学んだことで現在役立っていることは何かという問いかけに対し、多

くの卒業生が演習での学びという点を挙げていました。演習での教員からの指導は、仕事のうえでもちろん、生きていくうえで大きな糧となっているとのことでした。また、それに加え、演習での発表や卒論に向け、ゼミ員同士で頑張ったことが自信となり、また、良い思い出となっているとのことでした。本学部での教育の方向性の正しさを改めて実感しました。全教員が、引き続き一人一人の学生と向き合う教育を行っていくつもりです。もちろん、社会は急速に大きく変化しており、その対応が迫られ、学部での教育内容や方法も常に見直しが必要となります。しかし、「person to person」の理念は常に維持されていくべきものと思います。

魅力あるキャンパスが 充実したキャンパスライフを 実現する！



学生部長 教授
内藤 高雄

本年4月より、前任の北島勉教授から総合政策学部学生部長を引き継ぎました。どうぞよろしくお願いたします。

井の頭キャンパスも3年目に入りました。私はこれまで4年間、学生支援センター長として、八王子キャンパスから井の頭キャンパスへの移転期に、キャンパス全体の学生支援を担当してきました。

本年度からは総合政策学部学生部長として、総合政策学部の学生達が快適なキャンパス・ライフを過ごすために、誠心誠意つとめていこうと考えております。

学生時代は素晴らしい時間だと思います。われわれ学生委員会では、一人一人の学生が充実したキャンパス・ライフを過ごすための支援を行っています。総合政策

学部では6月1日現在、大学が公認する35の団体に、³⁶⁵名の学生が加入しております。これらの団体は井の頭キャンパスや八王子キャンパスの施設、並びに三鷹近隣の公共施設などで活動しております。学生委員会では両キャンパスの施設の管理だけでなく、近隣自治体との交渉も行っております。

また三鷹市、八王子市、羽村市などで多くの学生が、ボランティア活動に参加しております。現在では来年夏に開催されます、東京オリンピック・パラリンピックに、ボランティアとして参加する学生の募集も行われています。これらのボランティア活動に参加することは、社会体験を積むだけでなく、学生時



代の素晴らしい思い出になることと思います。

さらに毎年10月中旬に井の頭キャンパス行われる学園祭、杏園祭は、学生たちが日頃の活動の成果を発表する貴重な場であるとともに、キャンパス近隣との融和を図り、地域との密接な関係を築く貴重な場でもあります。当日は2日間で1万1千人を超える来場者があります。地域の住民の皆様からは、日常的に自転車通学、バス通学などのマナーの問題、騒音の問題など、多くの貴重なご意見をいただいております。杏林大学が三鷹市でこれまで以上にしっかりと根付いていくためにも、大切な機会であると思っております。

また学生の食育という観点か

らは、食堂や売店の一層の充実を図るとともに、これらを補完する意味でも、キッチンカーの充実などが重要になってきます。この他にもようやく樹木や芝生が根付いた杏林プラザやキャンパスプラザの整備の問題、トレーニングルームやシャワールームの管理と充実、クラブ・サークルの部室や図書館のラーニング・コモンズなど、日常的に学生が活動する場所を確保する問題など、まだまだ問題・課題は山積しております。

これらの諸問題について、関係各部署と緊密に連携しながら、真摯に、そして着実に対応していくと考えておりますので、どうぞご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大学と、 就職のための力



就職委員長 教授 岩隈 道洋

この一年間、総合政策学部の就職委員長として、学生たちの就職活動に資する(と我々が信ずる)キャリア教育カリキュラムの運営に携わってきた。本学部を卒業するためには、学生が自らの興味関心に即して選択する専門科目や教養科目の他に、「キャリア関連科目」を、一年生から就職活動が始まる三年生までの間、連続的に履修しなければならぬ仕組みになってい

る。一年次には職業生活の認識を中心としつつも、金銭面や家族計画など、学生が自立した大人として人生設計ができるような知識を得させ、考えさせる「ライフ・プランニング」を、二年生では就職への意識付けや日本の企業情報の読み方から進路を考えさせる「キャリア開発論」、そして三年生の時には6月と12月の2回、リクルートスーツに身を包み、本番さながらで

模擬面接やグループディスカッションを体験する「就職トリアル」を含む、就職活動の実践指導となる「キャリア開発演習」を必修科目としている。このほかに、知能テストや情報処理に関する能力向上のための科目も設け、就職支援のための授業体制としては、万全の体制を用意している。

ところが、当の学生たちの中には、「こんな就職予備校みたいな授業は大嫌い」「スーツを着た就活を全員が強制されるようで不快」「大学は自由に学べるはずなのに、興味の有無にかかわらずこんな科目を強要されるのはおかしいと思う」「キャリア系の授業は、毎度結論が「大人になれ」「社会人として自立」「自己分析」「己の価値を高めよ」ばかりで飽き飽きしている」と、なかなか手厳しい意見を言う者もいる(もつとも、このような授業



が刺激的で大好きな学生も少なくな
い)。多くの大学教員は、大学の自由
でアカデミックな雰囲気を楽しむか
らこそ、大学に奉職する途を選んだの
であって、そのような学生の手厳しい
意見に賛成したい気持ちも無いでは
ない。しかし、当学部は「総合政策学
部」であり、学生の学問的研鑽の主た
る対象は「社会」である。学生の就職
状況は、もう何十年前前から、新聞や
テレビのニュースを賑わす、重要な
「社会現象」であり、「制度」でもある。
そしてその変化は、経済状況や人口動
態を反映して、実にめまぐるしい。こ
のような時代に「総合政策学部」にお
いて、社会を巡る諸学問を学ぶ機会を
手にした大学生が、自らの世代を主人
公とした「大学生の就職」という社会
現象を学ばないというのは、センスに
乏しい行動に思われる。しかも、自ら

がその現場に「参与観察」できる機会
が保障されているのである。これを活
かさない手はないであろう。

ありがたいことに、本学部が上記の
キャリア関連科目をカリキュラムに
組み込んでから、就職希望者の就職率
は上昇を続け、2016・2017年
度には100%を達成してきている。
学生の頑張りや、カリキュラムの成果
は、目に見える形で表れてきている。

最後に、就職指導をしていて、ごく
最近気になる点について付言した
い。スマホとSNSの普及によって、
短文のコミュニケーションを好む現
代の学生たちは、ES・履歴書の作成
時に、初めて、自分について、ま
まった文章を書かなければならなく
なる。これが少なからぬ学生にとり、
実に困難な作業らしい。ESの文章
は、学生自身の生活史や個性を示し

つつも、文法や形式に適ったもので
なければならぬ。「無難」な「正解」
は無い。こればかりは、一朝一夕に何
とかなる処方箋は存在しない。陳腐
だが、日頃から固めで長めの文章を
読む習慣をつけることが不可欠であ
る。日頃読む文章のレベルを超える
文章は絶対に書けない。また、授業
ノートやレポート課題は、やつつけ
仕事ではなく、日々、主体的に取り組
むことも推奨したい。そして、自分を
語るためには、好きなことに没頭し
た経験や、予想外の事態に対処した
経験、成功・失敗をどう消化して今の
自分があるかを考える機会、これら
が材料として有用である。ご家庭で
も、自然にそのような機会を、出来れ
ば親子で楽しめるような工夫を、日
常のコミュニケーションに取り入れ
ていただきたいと願っている。

キャリアサポートセンターの紹介

2018年度 キャリアサポートセンター年間スケジュール

	行 事	対象学年	総合政策学部
前 期	4月 学部オリエンテーション キャリアガイダンス 学内資格講座ガイダンス 外国人留学生就職ガイダンス	1-4年	3/29(木)~4/4(水)
		1-4年	4/5(木)~4/11(水)
		4年	4/21(土)
	5月 就活スタートアップ講座 (U・Iターン就職)LO活セミナー 就職ガイダンス 就職用証明写真撮影会:有料 学内企業説明会	3年	5/26(土)
		1-3年	6/1(金)
		3年	5/16(水)
		3・4年	5/21(月)
		4年	5/22(火)・5/24(木)
	6月 就活トライアル	3年	6/30(土)
	7月 業界理解セミナー 筆記試験対策講座(基礎) 企業見学事前勉強会(ジョブスタディ)	1-3年	7/17(火)・7/18(水)
		3年	7/20(金)~7/23(月)
		1-3年	7/24(火)
8月 多摩地区18大学合同企業説明会 企業見学(ジョブスタディ) インターンシップ研修	4年	8/7(火)~8/9(木)	
	1-3年	8月~9月	
	2・3年	8月~9月	
9月 就職ガイダンス 学内資格講座ガイダンス SPI 基礎講座 就職用証明写真撮影会:有料	3年	9/19(水)	
	1-4年	9/20(木)~9/21(金)	
	3年	9/27(木)~10/3(水)	
	3・4年	9/26(水)	
10月 SPI 応用講座 業界研究セミナー 就職実践講座(グループディスカッション、面接対策) 女子学生キャリアセミナー	3年	10/16(火)~12/11(火)	
	3年	10/19(金)~12/14(金)	
	3年	10/20(土)	
	1-4年	10/24(水)	
11月 就活トライアル	3年	11/17(土)	
12月 SPI 模擬テスト(WEBテスト) 応募書類集中添削期間	3年	12/18(火)	
	3年	12/10(月)~12/14(金)	
1月 就職ガイダンス 就職用証明写真撮影会:有料	3年	1/9(水)	
	3・4年	1/15(火)	
2月 就活実践講座 企業研究セミナー	3年	2/7(木)~2/8(金)	
	3年	2/14(木)~2/28(木)	
3月 学内企業説明会	3年	3/6(水)・3/15(金)	



就職カウンセリング



キャリアサポートセンター職員

就職ハンドブック活用法

キャリアサポートセンターでは学生の就職活動を支援するため、就活ハンドブックを配布しています。ハンドブックには就職活動における必要な情報を掲載しており活用することで円滑に就職活動を進めることができます。

Q.どのような情報が掲載されていますか？

A.自己分析や業界研究の方法、企業へのEメールの送信方法や電話のかけ方、面接時の注意点、大学指定の履歴書の書き方等が掲載されており、手元に置くことで必要な情報をいつでも確認することができます。



女子学生キャリアセミナー

キャリアサポートセンターでは女子学生のサポートとして、女性のライフプランを考える機会を作り就労意識を高めるとともに、働き方の視野を広げるために女子学生に限定したセミナーを開催しています。セミナーでは『女性を取り巻く雇用環境』をテーマに女性が働く上で知っておきたい法律や知識の講義を行うほか、女性特有の転機（結婚、出産など）に直面した際に柔軟な選択ができるよう指導をしています。

就活トライアルについて

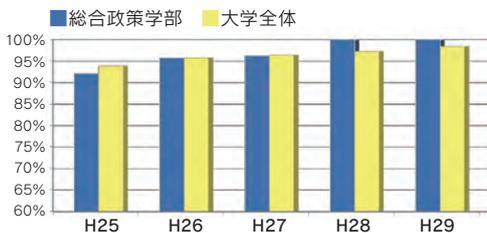
このイベントは2012年より開始され総合政策学部の3年生が全身体験します。仮想企業を設定してエントリーシートの提出から内定獲得までの選考過程を疑似体験でき、就職活動に対する準備を踏まえた重要な学部イベントとして毎年春学期と秋学期の年2回実施しています。

就活トライアルの具体的な内容としてエントリーシートをあらかじめ必修科目の授業であるキャリア開発演習Iで作成し、そのエントリーシートを基に本番さながらの集団面接を受けます。又、選考試験の一つであるグループディスカッションや就職活動に欠かすことのできない身だしなみやマナーの講座も体験します。

さらに、採用選考で設けられている筆記試験にも対応できるミニ講座も設けています。参加学生からは「グループディスカッションも集団面接も実際の形式で体験する為、大変緊張して疲れました」という感想も寄せられ、緊張感を持った取り組みは就職活動に対する学生の意識向上につながっています。



■就職率の推移 (平成25年度卒～平成29年度卒)



学部	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
総合政策学部	92.1%	95.7%	96.2%	100.0%	100.0%
大学全体	93.9%	95.8%	96.4%	97.3%	98.4%
厚労・文科省発表	94.4%	96.7%	97.3%	97.6%	98.0%

就職率 = 就職者 / 就職希望者

■平成29年度主な就職決定先 (平成30年3月卒)

平成30年5月1日現在 / 総合政策学部

【教育・公務】杏林学園、首都大学東京、神奈川県警察本部、警視庁、埼玉県警察本部、新潟県警察本部、上尾市消防本部、横浜市消防局、皇宮警察本部、市川市

【金融】福島銀行、三条信用金庫、西武信用金庫、多摩信用金庫、都留信用組合、東京厚生信用組合、水戸証券

【小売】アシックスジャパン、メガネトップ、レッドバロン

【製造】アラマークユニフォームサービスジャパン、アルメックス、コーセー、リンレイ

【建設・不動産】三機工業、竹中工務店、アーネストワン

【商社】エネックス、サイサン、東京多摩青果、東京鉄兼

【情報通信】帝国データバンク、日本システム技術

【サービス】エイチ・アイ・エス、nmsホールディングス、セコムジャスティック、トランスコスモス、ネクシィーズグループ、安房農業協同組合、信州うただ農業協同組合、津久井郡農業協同組合

【運輸】東京地下鉄、日本トランスオーシャン航空、セイノースーパーエクスプレス、東邦運輸

■平成29年度求人倍率

●求人件数 5,963件 ●求人倍率 6.8倍
(求人件数 / 保健・総合政策・外国語学部者数)

本学卒業生の採用実績の多い企業を中心に、多岐にわたる業界から毎年多くの求人票が送られてきます。

■インターンシップ先

三鷹市、川崎市、武蔵野市、府中市、羽村市、八王子市、アクセスヒューマネクスト、SMBC日興証券、イービーシー商会、NHKグローバルメディアサービス、NHKビジネスクリエイト、紀伊國屋書店、サイサン、サミット、酒井薬品、三機工業、西武信用金庫、メティセオ

■面談件数 (推移/総合政策学部)



就職活動をのりきった 学生3人に、 内定を勝ち取るための 経験やテクニックなど 生の声をお聞きしました。



左：竹内さん(内定先 JR東日本)
中：鮫島さん(内定先 西武信用金庫)
右：山口さん(内定先 第一生命)
司会：キャリアサポートセンター 清沢さん

【清沢】今回座談会では就職活動について、ご自身の経験などを聞いていきたいと思えます。まずは、就活を始めた頃のお話を聞かせていただけますか。

【竹内】私が就活を意識し始めたのが三年生の九月頃でした。特にやりたいことはまだ決まっていなかったのですが、インターンシップでは職種や業界を問わず数を受けました。結果として30社ほどのインターンシップに参加しました。

職種は一通り回れたと思います。もともとと鉄道関係のアルバイトをやっていたので、鉄道業の仕事に携わりたく思っていました。またインターンシップを通して不動産の方にも興味がわいたので、不動産と鉄道の業界に絞って受けてみようかなと思

いました。

【清沢】同じような質問で鮫島さんお願いします。

【鮫島】就活を意識し始めたのは三年の六月にインターンシップの情報が解禁されたと同時くらいです。夏のインターンシップで13社行きましたが、その時点ではぜんぜん業界なども決めていなくて、消去法でどんどん決めていき、最終的に信用金庫と、住宅業界、ハウスメーカーに絞っていきま

した。

【清沢】お二人とも30と13って多いですね。山口さんどうですか。

【山口】意識し始めたのは三年生の十二月に開催された合同説明会に参加したときに、ちゃんなきやいけないと焦りました。

それまでインターンシップは一回も行っていません。

元々私はアパレルで働いていました。人と話すのが好きという単純な理由で、営業職が向いていることは感じていましたが、会社はほとんど雰囲気決めました。

【清沢】三年の十二月に説明会にいった時の様子はどうだったのでしょうか。

【山口】みんな緊迫しているんです。私はあまり緊張しない方なのですが、皆があせっている雰囲気を出しているから、私もそれに乗らないといけないのかな？みたいな。初めはそういう感じでした。ほとんど準備をしていなかった、という負い目があったのかもしれませんが、浮いてる、ま

【清沢】今お伺いしたのは就職活動の準備の期間についてということでした。その後、自らが働きかけをした就職活動本番としてその内容を詳しく教えてください。

【竹内】実際に就活が始まったのが四月の筆記試験が最初だったかと思えます。その後面接、クレペリン検査という特殊な検査を通して選考が進んでいきました。鉄道は人気の業界の一つで、就活生の数が多く、聞いた話によると筆記試験だけでも5万人近くいるようです。それだけ数がいると何が何でもこの内定は勝ちとってやろう、という気持ちになりました。

自己PRの一部として、鉄道業界でアルバイトをしていたことから内部のことも詳しくかったので、その点においては誰にも負けないという自信がありました。

【清沢】ありがとうございます。よく整理されたお話でした。鮫島さんはいかがですか？

【鮫島】インターンシップの早期選考で受けていたのが多く、人よりも早めに二月から面接が始まっていました。三月になつて説明会等が本格的になつていきました。面接は早い段階でできたので、私は自己PRをすらすら言えていたと思います。ただ最初はぜんぜん喋れませんでした。

た。最初は暗記で、書いたことを面接でしゃべる方法でやっていたので、一文字飛んだら次なんだっけ、と考えてしまう時期がありました。でも慣れてきてからは、勝手に言葉が出ていたと思えます。

自分の武器としては、FP3級を持っていたので、信用金庫とハウスメーカーのどちらにも役に立ちました。簿記は2級を持っていましたので、信用金庫については強い武器となつたかなと思つています。学生時代に資格を取つていて本当に良かったなと思つています。

【清沢】戦略的に組み立てられているお二方の話を聞いて、山口さんはいかがでしょうか。

【山口】エントリーは10社くらいしていましたが、実際面接に行ったらプレッシャーをすごく感じました。

「メンタルが強く、打たれ弱いと出来ないうよ」と面接官によく言われましたが、私は高校の部活でサッカーをやっていたので、そこで培われた打たれ強さは、「強み」としてアピールすることが出来ました。

【清沢】ありがとうございます。次にその会社を決めるきっかけやその理由を、話せる範囲で結構ですので教えてください。

【竹内】私が内定いただいたJR東日本の



電車は、一日に1800万人が利用しています。その人々の通学、通勤を支えていることが、すごく大きなことだと思つたんです。やりがいを感じたので、数ある鉄道会社の中からJR東日本に決めました。

ただ、面接は十分未満でしたので、その思いを話すことはできませんでした。ルールは守れますか？入ってから何をやりたいですか？の様な質疑で、自ら伝えたいことはエントリーシートに書いたことが全てでした。思えば、エントリーシートで聞けなかったことを聞く、という形



だったのだと思います。エントリーシート
の書き方は、ネットにたくさん例がありま

すが、私は自分の言葉で書くことが大事だ
と思っっています。変に難しい言葉を使うよ
りも、自分の伝えたいことを下手でもいい
から伝えるようにしよう、エントリー
シートを書く中で思いました。

【清沢】鮫島さん。内定先を決めたきつ
か、理由など、お聞かせください。

【鮫島】信用金庫に決めた理由は、結婚や出
産と合わせて働き方を考えたときに、ワー
クライフバランスがとても充実していた
ことです。

中でも西武信用金庫に決めたのは、集金
業務などをなくしてお客様一人ひとりと
関われる時間を増やすなど、他の信用金庫

とは違う点で、時代にあった関わり方をし
ているところに魅力を感じました。

【清沢】人生設計まで考えていたという事
ですね。では、山口さん。

【山口】私も就活の中でワークライフバラ
ンスのことは考えていました。第一生命で
働く女性は出産して戻ってくる方が多い
と聞きました。

また決め手として、面接官の人が良い人
でした。面接官は会社の人ですよ。面接
後の立食会は300人位の参加者がいた
のですが、面接官が私のことを覚えてい
てくれました。人と人との出会える仕事だから
かと思えますが、そういう風に覚えてい
てくれるのは嬉しいし、ここで仕事が出来た
ら素適だなと思いました。

もう一つは単純なのですが、私は本当に
トップセールスになりたいと思っていま
す。そこまで具体的に伝えたいわけではない
ですが、私は営業をやりたい気持ちがある
という話はしました。

【清沢】ありがとうございます。では、最後
にキャリアサポートセンターの利用方法
や、在校生に対するメッセージという内
容で、締めくくっていただきたいと思います。

【竹内】まず、キャリアサポートセンターに
足を踏み入れることはすごく重要な一歩
かなと思います。一回踏み出してしまえ
ば最後まで支援してくれるので、就活の
支えにとってもなります。面接の方法、お辞
儀の仕方から、エントリーシートの書き
方や添削をいただいたり、どんなきつ



けでも良いので、気軽に利用してみてもいいでしょうか。

就職活動はとても大変ですが、是非とも意識して欲しいことが二つあります。一つは絶対に自分を見失わないこと。いろいろな会社を受けていると面接で圧迫を受けることがあります。そのような時、この仕事に向いていないんじゃないかと、自分を見失うことがあります。そういった中でも決して挫折せず、自分自身がやりたいことを貫き通すということが大事です。

もう一つは、日々の小さなきっかけを見過ぎさないことが大事だと思います。私が鉄道に興味があって進路を思うようになったのは大学に入ったからで、鉄道のアルバイトを始めたのも親戚の伯父が紹介してくれたからです。アルバイトや趣味が、仕事が見つけれられる糸口になるのではないかと思います。ですから一日一日を大切に過ごして欲しいなと思いました。

【清沢】ありがとうございます。鮫島さんお願致します。

【鮫島】私は自己PRとかエントリーシートへの書き方が最初は全然わからないところから始まりました。何回も添削してもらって完成形に近付けたことは、内定をいただいたことにも繋がっていると思います。

す。業界研究セミナーは、意外な気づきや、自分の知識が広がるので参加した方が良いと思います。

まずは業界を無理に絞らない方が良いと思います。狭い知識の中で選択するよりは、後悔しないように数を受けてから絞った方がいいと思います。

もう一つ。自分の強みになることを学生時代からやるべきです。私も最初は強みがありませんでしたが、資格を取ることを始め、ゼミ長やゼミ連長の指名を受け、徐々に色々な経験を積みました。学園祭や新生歓迎会などに携わったことは、面接官の受けも良かったように思っています。

【清沢】共通して言えることはまずはやってみるという事ですね。それでは山口さんお願致します。

【山口】SPIが苦手な人がいますが、これはやらないと絶対に後悔すると思います。

これができないと面接にも進めませんので。ただ苦手な人でもやり方は決まっているから、SPIは脳の訓練だと思って期限

を決めて取り組むとよいと思います。

また、3年生の就活の時期には本を読んだり絵を見たり映画を見たり、そのような感性が豊かになることをするのは大事かなと思います。世間が狭いというか、自分のみているものが狭いと、その範囲でしか考えられなくなり、就活ではあまり良くないと思います。エントリーシートを書く時もそうですが、話し方などの表現も、いろいろな言葉を使った方が興味を持ってくれると思います。

【清沢】以上になります。みんな素晴らしいかったですよ。動画を公開したいくらいです。お疲れさまでした。





将来の目標実現へGDPに参加 留学で英語力を鍛え、文化を知る

高嶋 彩璃 さん

あえて日本人留学生が少ないタイへ

私は現在、アパレルのバイヤーを目指しています。が、入学した頃は目標が定まっていませんでした。社会学や経済学、経営など幅広く学べる総合政策学部なら、やりたいことが見つかるのではないかと考えたのです。また、国際系の高校に通っていましたが英語は基礎を習っただけ。もっと英語力をつけたいと、開設したてのGCPに参加しました。

目標を見出すきっかけとなったのが、1年生のときのGCD※です。社会人の方々が自身のキャリア形成について語る授業で、先生に指名された学生が講演内容を記事にまとめます。いつも以上に人の話を聴く機会になりました。そのときの講師がグローバルに活躍されている方で、これからの自分に当てはまっていくなかと思えたのです。

GCPのプログラムでは昨年、タイのチェンマイ・ラチャパット大学に留学しました。英語を話さなければならぬ環境で、コミュニケーションができるレベルまで英語力を鍛えたかったです。そのため、英語留学ではアメリカやオーストラリアなどが一般的ですが、日本人留学生があまりいないタイを選びました。私自身、タイは初めてでした。

現地に入ったのは8月、雨期に当たります。まずは環境に慣れるのが大変でした。しかも初めての1人

暮らし。初めて尽くしの留学は、さっそく困難に直面しました。家賃を払わなければならないのに、ATMでデビットカードが使えない！現地でお金を下ろす予定だったので、現金を持っていなかったのです。大家さんに相談し、自分でトウクトウクを拾って銀行に行き、何とか解決できました。これがしたいという気持ちはあっても、言語が使えないと何も伝わらない。土地勘もないので、行動も躊躇してしまう。共通言語の英語が習得できていないことに焦った経験が、その後の学びの原動力になったと思います。

ラチャパット大学では、1年生は英語の基礎、2年生から英語で専門的な科目を学びます。私は「経営」を選びました。ただ、英語の専門用語を知らない授業についていけません。日本人は私だけだったので苦労しましたが、仲良くなったタイ人の女性が支えてくれ、とても助かりました。彼女とは今も交流しています。タイ人の先生の英語は訛りがありましたが、ネイティブと違ってゆっくりと話され、私には聴き取りやすかったです。

現地での交流から自国文化の大切さを知る

アジア留学は英語圏に比べて危険、不安という一般的なイメージがあります。でも、実際はそんなことはないですし、英語をしゃべれなかった私に優し



く丁寧に教えてくださいました。のんびりしていて、時間のメリハリをつけるのに最初は戸惑いましたが、日本より穏やかで過ごしやすい国です。「日本って何が一番おいしいの?」「このアニメを知っている?」といったことも、よく尋ねられました。日本に行ったことがない人でも、私より日本のことをよく知っていたりします。私自身が日本の文化を知っていなければと自覚することができました。

帰国後はバイヤーを目指し、小規模なセレクトショップでアルバイトをする一方、最近では大型店でも働き始めました。大勢の中でのコミュニケーション力や業務経験が必要になると思っていたからです。外国人のお客様がかかり来店しますが、留学後は意味が通じるように対応できるようになりました。授業でも、ネイティブの先生の話が自然と聴き取れます。ただ、相対的に英語で話す機会が減ったので、ユーチューブなどで英語をしゃべっている動画を見るなどしてインプットに努めています。

今はマレーシアに行ってみたいですね。英語が共通言語で、留学した友達から「いろんな国の人が集まっている、いろんな文化を学べた」と聞いたからです。そうした体験によって良い意味で固定概念が崩れ、視野が広がっていくのではないかと思います。

※GCD……Global Career Development



1年間の留学でネイティブレベルに 計画と挑戦の継続が成果を生む

碓 大毅 さん

可能性は自分次第で多様に拓ける

高校時代から、将来は母が創業した化粧品店を継ぎ、ワールドワイドに発展させたいと思っていました。第一歩として国内の化粧品メーカー企業に就職し、海外の子会社や支社で経験を積みたい。そのために経済や経営、会計の知識を得ようと、さまざまな学びができる総合政策学部を感じて入学しました。

海外で働くには、単なる文法ではなく、コミュニケーション能力を土台にした英語力が必須になります。ただ、僕は英語が大嫌いだっただけです。中学高校ではバスケットボールに熱中し、勉強自体に興味がなかったほど。福井県の出身なのですが、外国人が来ないような地域で、海外経験もありませんでした。生の英語に触れる機会がなかったのです。英語ができなければ将来どうなるんだろうと、とても不安に思っていました。

そんな経緯もあり、入学した年に立ち上がったGCPに参加しました。英語漬けの日々を1年間送って、2年次に留学で英語を完璧にし、コミュニケーション能力を高めようと思ったのです。実際、1年次では先生に教えられるがままに学び、その学びの成果を2年次の留学で実感することができました。会話も勉強もできるようになり、今年の総合政策学部賞につながったのだと思っています。逆に、海外

経験がなくてよかったのかもしれませんが。大学に入って急に目の前にGCPが現れた感じで、ゼロからのスタートだったので初めての刺激をたくさん受けました。自分次第でいろんな可能性を拓いていく、というのが実感です。

目の前に現れた機会を自分でつかむ

留学先は英国のチェスターカレッジで、GCPのプログラムである半年間は基礎の習得に専念しました。ホストマザー宅から学校に通い、午前中にライティング、スピーキング、リーディング、リスニングなどを週15時間、午後は好きな科目が選べるのでIELTSを取りました。授業後は図書館で、帰宅後は部屋で勉強し、その後はホストマザーと会話する。この生活を毎日続け、英語が上達したのです。するとつと学びたくなくなり、自費留学でさらに半年間滞在しました。寮に移り、30カ国以上の人たちと交流することができました。

この計画がよかったなと思っています。基礎を固めてからどんどんコミュニケーションを広げ、学んだことをアウトプットしていく。寮での半年間は勉強はもちろん、友達を部屋に呼んだり、キッチンでご飯を作ったり、たまにはレストランで食事をしたり、バスケットボールをしたり。さまざまなコミュニ

ケーションによって、英語力が鍛えられたのです。

とはいえ、留学当初はCEFR※のA1からC2まで6段階・9クラスの下から四番目で、話すこと自体が困難でした。だからこそ計画を立て、環境に慣れていったのです。その結果、トップのクラスに上がることができました。ただ、ネイティブレベルの人ばかり。この場に適していないのではないかと困惑しましたが、授業では差を埋めるために何ができるかを考えさせられます。その努力ができるようになったことは大きな成果でした。最終的には時事問題に対する見解を求められ、何度もプレゼンテーションをさせられます。コミュニケーション能力やチャレンジする姿勢も試されますが、その練習を積むことができてよかったと思っています。

帰国した頃は英語力が後退するのではと、すごく不安でした。でも、日本にいても英語を話す機会があります。さまざまな国の人たちとつながることができる「Meetup」を活用したり、英語サロンに通ったりして、英語力の維持・向上に役立てています。GCPでは、たくさんの方が得られます。流れに身を任せるのではなく、目の前に現れた機会をつかんでいくことが大切です。後輩の人たちにも、どんどん機会をつかんでほしいですね。

※CEFR……Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment

地域交流委員会より

委員長 教授 原田 奈々子

少子高齢化、あるいは超高齢社会化が

喫緊の課題として問題提起されて久しい

昨今です。周知の通り、2025年には総

人口の5分の1を非生産人口が占めるこ

とになることが統計上明らかになってい

ます。こうした人口構成の推移は、徐々に

経済力の地域的偏差を生む原因ともな

り、景気の動向と相俟って地方経済の縮

小化は既に現実の問題となっています。

また他方において高齢化の進行は社会保

障の増大をもたらすものであるのは必然

といえるでしょう。

では大学は高等教育機関として、現在

わが国が直面するこうした問題に対して

どのような役割を果たし、地域社会に貢

献することができるでしょうか。大学は

研究機関であるとともに教育機関です。

そして社会の中にあつて、その所在する

社会を構成する一要素でもあります。研

究機関として大学が持つ知的財産を地域

社会と共有する、すなわち地域経済の活

性化のために大学の知識を活かすとい

ことはもとより、教育機関として、学生に

自分の住むエリア、日常活動するエリア

に対する意識を醸成し、地域とともに生

きることの意味や意義を教育することに

は、大学にとって重要な役割のひとつと

いえます。大学は地域社会と学生とを結

びつける結節点としてさまざまな役割を

果たす主体として存在するものです。

本学はそのような意識のもと、

2013年に文部科学省の補助金事業の

うち知(地)の拠点整備事業「新しい都市

型高齢社会における地域と大学の統合知

の拠点」として採択されました。以来、そ

れまでに連携関係を結んできた八王子

市、三鷹市、羽村市とともに、この事業を

積極的に推し進め、2017年度に最終

年度を迎えた昨年度に引き続き、この地

域連携事業に取り組んで参りました。ま

たこうした本学と深く関わる自治体との

連携だけでなく、国際基督教大学やルー

テル学院大学といった近隣大学との地域

連携事業、さらには東日本大震災からの

復興に向けて、地域間連携事業を行う岩

手大学と共同プロジェクト(COCプラ

ス)を組み、首都圏大学の地方創生への取

り組みを進め、一定の評価を得ることが



できました。今年度以降も、自治体との連携、大学間連携を通じて、大学と地域との関係性をより緊密に保ちながら、大学の知的財産を活かしていく計画です。

さてこうした本学全体の動きの中で、総合政策学部は教育面において、学生の地域への意識醸成を図るべく一年生向けに「地域と大学」を必修科目として設定しています。ここでは、まずミニマムな横の連携、つまり学部の垣根を取り払い、医学部、保健学部、本学部、そして外国語学部の学生が合同で作業を行い、相互理解を図るとともに、本学が連携する各自自治体が解決すべき課題を協力して考え、それを自治体の方々に披露するという場としています。

「地域と大学」の授業は、単なる学部相互の協調を図るだけに留まらず、課題を解決するに際して、学部混成チームを組み、さまざまな考えや価値観をもつ学生同士が、自己の意見を交わしながら、チームとして課題を解決するため、多様な意見をいかに集約させてひとつの意見にま

とめ上げるか、そしてその意見を、地域行政に精通した市役所職員の前で、いかに効果的にプレゼンテーションするか、一年生の段階から社会で必要とされる実践技能を磨く場となっています。

今年度の「地域と大学」では、自治体にとって大きな課題である、「防災」、「外国人居住者との共生」、そして「地域経済の活性化」が、それぞれ三鷹市、八王子市、および羽村市から提示され、学生たちは初めて出会う、しかも学部を異にする同期の学生同士、苦勞しながらも、しかし生き生きと授業に臨みました。さまざまな試行錯誤を重ね、新入生は、春学期を終える頃には地域マインドをもつ大学生へと成長した姿に変化していきます。

そして二年次以上の学生は、このような一年次の経験を踏まえ、地域交流のさまざまな活動場所へと出かけて行きます。本年度本学部の学生たちによる地域交流・貢献活動の事例の一部をご紹介します。

●藤原ゼミナール・齋藤ゼミナール

井の頭公園など身近な地域の清掃活動を7年間行い、三鷹市より環境活動表彰を受賞。(2018年4月)

●北島ゼミナール・木暮ゼミナール

八王子地域にかかわりある大学・学校の合同学園祭第13回「★学園天国★」に参加し、北島ゼミナールはHIVの正しい知識の啓蒙、木暮ゼミナールは選挙啓発活動を行う。(2018年5月)

●青梅市・羽村市ピースメッセンジャー事業に本学部学生1名が参加。

●進邦ゼミナール

アトレヴィ三鷹が作成する地域向け情報誌「みたから」の紙面記事作成に参加し、9月八幡大神社例大祭、10月三鷹ハロウィンを取材。

●木暮ゼミナール

第49回羽村市産業祭に参加し、オリンピック・パラリンピック気運醸成ブースの充実化に向けた企画・提案を行い、ブースを運営。(2018年11月)

●第5回羽村市にぎわい音楽祭に本学部学生6名がボランティアスタッフとして参加。(2018年12月)

●木暮ゼミナール・久野ゼミナール・半田ゼミナールが八王子学園都市センター主催第10回大学コンソーシアム八王子学生発表会に参加し、奨励賞、口頭発表優秀賞を受賞。

アトレヴィ三鷹 × 杏林大学

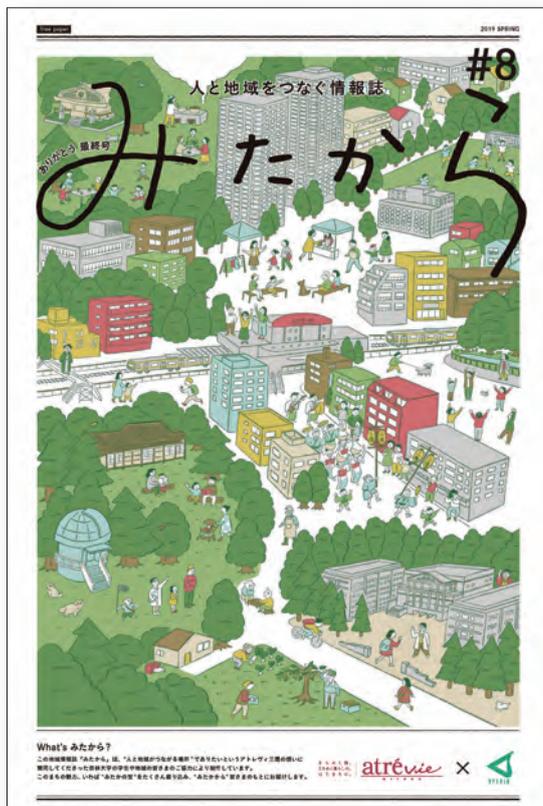
まちの魅力発信！ 人と地域をつなぐ情報誌「みたから」

進邦徹夫教授のゼミ学生と三鷹駅構内の商業施設アトレヴィは、駅周辺の商店街や三鷹地域を拠点に活動する団体などを紹介する情報誌「みたから」を2016年より発行してきました。杏林大学と株式会社アトレは地域貢献パートナー協定を締結しており、地域の活性化を目的とした事業に取り組んでいます。そのうちの 하나가情報誌の制作です。

おしくも2019年3月発行のvol.8が最終号となりましたが、取材や制作にご協力いただきました方々とは、かけがえのないご縁が生まれました。また、三鷹をフィールドにインタビューや撮影をした学生にとってとてもよい経験になりました。

井の頭キャンパスへ移転してから3年が経ちますが、引き続き地域連携を密に、三鷹を盛り上げていきます。





※アトレヴィ三鷹館内などで配布しています。



「経営」の道を目指したい 自分で考え、動くことを大切に

長谷川 透吾さん（3年生）

時間の使い方を工夫し、集中して学ぶ

僕はもともと大学に進もうとは思っていなくて、競馬のジョッキーマッチを目指していました。厳しいとは分かっていましたが、とても狭き門で試験に落ち、大学進学を考えたのです。大学の学部は一般に、経済や法律、文学など専門分野に分かれています。それに対して杏林大学の総合政策学部は、1年次には経営や経済、政治、福祉、法律など七つの分野を学ぶ。それぞれの基礎を固め、2年次からより深く学びたい分野に進みます。次の目標を見つけるためにも、まずはできるだけ広く学びたいと思い、総合政策学部を選びました。

学びを進める中で見えてきたテーマが「経営」です。家が三代続く自動車整備業であることも影響しています。父は優れた技術を持っているのですが、あるとき「経営も勉強していたら、もつと会社を成長させられたかもしれない」と語ったことがありました。自分が少しでも家業に役立てればと思い、経営を学ぶことにしました。

僕は高校時代までスポーツばかりやっていて、勉強が大嫌いでした。何事も一番でなければ嫌な性格なのですが、勉強はやりたいくないという気持ちが一番にあったんですね。そんな僕が昨年は成績優秀学生に選ばれました。どうやって勉強しているのかと

よく聞かれるのですが、時間の使い方を変えたことが大きかったと思っています。

自宅は川越にあり、大学までは片道で約2時間かかります。入学した頃は往復4時間の移動時間に音楽を聞いたり、動画を観たり。ただ、帰宅後に課題をやると就寝時間が遅くなり、嫌だなあと……。それならば、電車の中でやってしまおうと考えたのです。行きに前日の復習、帰りにその日の課題を終わらせる。これを習慣化してから勉強が身につけていきました。長い通学時間が集中して学ぶ工夫につながっていたのです。

経験を通して経営を実感する

ゼミでは起業について研究しています。先生から出された課題に対して、どうすれば解決できるのか、それを可能にする新しい発想とは何かを考える。とくに勉強になったのは、「杏園祭」での模擬店の出店です。経営に近いことを体験できました。ゼミの仲間と話し合い、2日間という短期間で利益を出すだけなら簡単、しかしそれは経営ではないという共通認識を得ました。経営の視点では、来年も同じことをやっても、みんなが買ってくれるものを提供する。その商材としてかき氷を選び、昨年と今年の2年続けて取り組みました。

杏園祭は10月初旬の開催で、肌寒い日もあるかもしれない微妙な時期。かき氷は天候に左右される食べ物です。そこで1カ月前から天候を予測し、仕入れ量を調整して、利益を出す方法を実践しました。しかし1日目、雨が雨になり、2日目とかなり売り上げに差が出てしまったんですね。今年はさらに試行錯誤し、想定した売り上げ・利益を出すことができました。

また、総合政策学部にはさまざまなゼミがあり、各ゼミの長によるゼミナール連合を組織しています。僕は2年生で経営コースのゼミに進み、ゼミ連合の副委員長を務めさせていただきました。先輩が多い中での大役でしたが、卒業パーティーなどの企画を自分たちで考え、実行することができました。コミュニケーションや組織運営の仕方など多くの経験ができ、とても感謝しています。

今は単位も取れてきて少し時間に余裕ができたので、週に3〜4日は自宅近くのガソリンスタンドでアルバイトもしています。体を動かすこと、人と話すことが好きなので、両方ともできるフルサービスのガソリンスタンドを選びました。給油や洗車、タイヤ交換のサポート、販売もしています。販売では店の総合1位に貢献でき、これはちよつと自慢です。

このような学生時代の経験は必ず将来に生きてくる、と思っています。



忙しさを楽しむことで 成長していききたい

藤原 詠菜さん(3年生)

「なりたい職業」の周辺へと視野が広がる

小学生の頃から、「公認会計士」になりたいという夢を持っていました。幼い頃から、お金にまつわる社会の仕組みに興味を持つ子どもで、そんな私に向いているのではないかと、親が教えてくれたのです。以来ずっと、なりたい職業として心の中にありました。

また、杏林大学のことを知ったのは中学3年の頃でした。姉が受験先の一つとして考えていて、印象に残っていたのです。そして、高校3年次に志望校の試験がうまくいかなかったとき、浪人という選択をせずに、自分の学びたい分野がしっかり学べる大学はないかと調べていたところ、再び杏林大学の名前に出会いました。もともとは、公認会計士を目指して経済学部や会計学をしていたのですが、総合政策学部でも経済学や会計学を学べるということを知り、さらに「国際関係学なども含めて幅広く学べる」ということに惹かれました。

そして大学生になった今でも、公認会計士、あるいは税理士という仕事への思いは抱き続けています。ただ、総合政策学部で分野をこえて学んできたことで、今では何が何でも資格試験ということではなく、一度社会に出てから考えてもよいのだと思うようになりました。資格取得を目指すにしても、会計事務所に就職して、実務を経験しながら勉強をしていくという道もあります。

それに、インターンシップを通して、より広く金融関係の面白さに気づくことができました。以前は、「金融II銀行」という堅い印象を持っていたのですが、授業の一環として、日興証券で5日間のインターンシップを経験したことで、一気に世界が広がりました。

大学生活を通して変化した自分

大学に入ってからのは、授業・アルバイト・サークルと、とにかくいつもスケジュールがいつぱいの慌ただしい時間を過ごしてきました。

授業では、「国際関係論」での現在各地で起きている紛争の話、「民法」での相続の話など、経済学部に入っていたら選択しなかったような講義との出会いがありました。進路として考えるほどではないのですが、講義を通して、今まで知らなかったことを「なるほど」と思えるのがとても面白いのです。

アルバイトは、今の住まいの近くにあるコーヒーと輸入食品のお店で、1年次の5月からずっと続けています。試飲のお誘いや特売品のPRなど、店頭で大きな声で呼びかけをしないとイケないのですが、自分が発した言葉に惹かれてお客さまが寄ってきてくださるのが本当に楽しいです。

サークルは、学園祭の実行委員会を選びました。高校のときに生徒会をやっていて、その流れで入ったの

ですが、2年次に衛生責任者になってしまい、保健所と各学生団体との間で本当に苦労しました。本番際際には12時近くまで大学にいるような生活で、授業の課題を進める時間も取れず、当日が終わったら委員会を辞めようと思ったほどです。でも、当日に手伝いに来てくれた先輩がいて、その方がいなくなったら対処できなかっただろうと思うことがたくさんあったのです。その経験を経て、自分も後輩にとつてそういう存在になりたいとの思いを持つようになりました。

そんな慌ただしさの中で、入学してから本当にあつという間の2年間でしたが、振り返ってみると、自分に二つの大きな変化があったと思います。

一つは、人見知りが克服できたということ。秋田県湯沢市という小さな街で生まれ育ち、幼稚園から高校まで同じ仲間と過ごしてきた上に、双子の姉妹や親友が社交的だったこともあって、少し引つ込み思案な性格でした。それが、同じ県の出身者さえいない環境で一から友人を作り、学園祭の実行委員として各団体や学外の方々との様々な折衝を担うまでになりました。

もう一つはスキマ時間の活用です。スケジュールが詰まっている分、空いた時間をつまく使って、空き教室で定期試験や簿記の勉強をする癖ができました。

引き続き、忙しい大学生活が続くと思いますが、授業からも、アルバイトからも、サークルからも、様々なことを学び、吸収していききたいと思っています。





講師
大西 健司

はじめまして。本年度より杏林大学総合政策学部に着任しました大西健司と申します。

専門は憲法学で、なかでも子どもの人権に関わる理論の研究を行っております。本学においては、「憲法Ⅰ・Ⅱ」、「行政法Ⅰ」、「生活と法」、「日本国憲法」などの専門科目のほか、「学際演習」や「プレゼミ」等を担当しております。

大学院時代においては、いわゆる研究大学院の博士課程に入学する前に、法曹養成のための専門職大学院である法科大学院に入学し、そこで研究の基礎を学びつつも、弁護士・裁判官・検察官となるための実務志向の学修を重ね

ました。同大学院修了後は、最高裁判所の付属機関である司法研修所で法曹資格を取得するための司法修習を1年間ほど行いました。ほとんどの修習生は司法修習の終了後には法曹三者の道へと進むこととなりますが、私の場合は学部時代から研究者となる希望を抱いていたため、法曹三者ではなく大学院博士課程に進学する道を選択しました。

いわゆる実学に分類される法律学にあっても、実務の世界と研究の世界との乖離は想像以上に大きく、博士論文を完成させるまでに思いの外時間がかかってしまいました。2015年度に何とか博士論文を提出し、その後は母校の特任講師(1年任期)や他校の非常勤講師を経て、縁あって本年度より本大学の専任教員として勤めることとなりました。

総合政策学部の特徴は何より「学際性」にあると思います。私のこれまでの研究においても、法律の実務において育んだ問題関心を法律学の理論によつ

て解き明かし、あるいは逆に、法律学の理論の側の限界の一端を実務の視点から明らかにすることを試みてきました。総合政策学部ではさらに研究の視野を法学以外の学問に広げつつ、外的な視点から従来の法学が抱える問題や限界にアプローチしていくこともチャレンジしていきたいと考えております。

総合政策学部に学ぶ学生達は、4年間の課程の中で多様な分野の学問を学際的に学ぶことにより、社会に生起する様々な問題を多角的に捉え、解決に導く能力を育むことが期待されています。同学部に属する教員の一人として、自らの研究成果を教育の形で還元することが学生達の一助となれば幸いです。とりわけ、同学部の教育の大きな特徴であるゼミナールにおいては、履修者一人ひとりの関心や視点を大切にしながら、狭義の憲法学や法学の枠に囚われない柔軟な視野で教育に取り組んで参りたいと思います。



准教授
伊波 浩美

本年度より、杏林大学総合政策学部に着任いたしました伊波浩美と申します。

専門は、開発経済学で、特にインドとアフリカにおける企業の貧困削減における取り組みに関して、研究を行っております。本学においては、開発経済学、アジア経済論、経済学、Introduction to Economics、プレゼミナール等を担当しております。

私は、大学時代にケニアのマサイ族の村でボランティア教師の仕事に携わった経験がきっかけで、開発途上国

の貧困問題に関心を持つようになりました。大学卒業後、アメリカの大学院で公共政策学の修士号を取得し、ケア・インターナショナル(国際NGO)のインド事務所で女子教育とマイクロクレジットの事業を担当しました。その後、アメリカの大学院に戻り、教育経済学の博士号を取得し、世界銀行に入行し、エコノミストとして、東欧、中央アジア、ロシア、アフリカ地域における教育融資と貧困調査の仕事に従事しました。

日本に帰国後は、コンサルティング・ファームに就職をし、経営コンサルタントとして、日本企業の新興国諸国への海外進出の支援の業務に従事しておりましたが、これまでの実務経験を活かして、グローバルな人材育成に携わりたいと強く願うようになり、大学の教員の道を目指すようになりました。

現在、本大学において、グローバル・

キャリア・プログラム(GCP)を担当させていただいております。GCPは、英語の習得に加え、経済、経営、国際関係、福祉といった総合政策学部が提供する専門科目やグローバルに活躍するビジネスパーソンにとって不可欠なスキルを英語で学び、そうした知識やスキルを仕事で活かせるようになることを目指しております。GCPを通して、国際的な視野を持ち、確かな知識を備えた人材を育成するために、これまでの経験を活かして、より実践を意識した講義を展開したいと願っております。また、学生達のインターシップや研究指導を通じて、国際的に活躍できる人材育成に尽力し、杏林大学総合政策学部の国際的評価の更なる向上に、微力ながら少しでも貢献することができれば幸いに存じます。今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



3組 半田・島村プレゼミナール



1組 岡村・藤原プレゼミナール



4組 川村・長谷部プレゼミナール



2組 渡辺・松井プレゼミナール



5組 木暮・大西プレゼミナール



9組 北島・マルコム・ミシェル プレゼминаール



10組 三浦・伊波プレゼминаール



6組 田中・加藤プレゼминаール



7組 糟谷・北田プレゼминаール



8組 大山・高田プレゼминаール



岡村ゼミ

社会福祉のあり方について様々な福祉現場での実践活動を通じて考えています。例えばゼミ活動時間を利用して、国内外の福祉施設や交流サロン等でボランティア活動を行い、その経験をもとにコミュニケーションのあり方などについて考えます。また福祉現場だけでなくビジネス現場を含めた様々な場における多様な他者の支援に役立つような技法、例えばマインドフルネスや英語でのコミュニケーション技法などについても学んでいます。



伊藤ゼミ

会社法に関する研究を行っています。会社をめぐる環境は、日々変化しており、法規制も大きく変動しています。会社法や金融商品取引法の改正といった法令の変化、各種の企業不祥事の発生、敵対的買収や企業再編といった実務界における動向等を、具体的事例を取り上げながら研究しています。各自が興味を持ったテーマを調べ報告し、みんなで検討しています。また、推薦図書を紹介しあい、多くの本を読むことを心掛けてもいます。



小田ゼミ

小田ゼミでは、経済に関する幅広いテーマを題材として、考える力と伝える力を高めるトレーニングを行っています。先生の研究分野は金融ですが、それに限らず、ゼミ生の関心に応じて多彩な問題を取り上げて、発表や討論などを行います。個人課題やグループワークを通して経済のセンスを磨き、社会で活躍するための土台を築くのが目標です。また、ゼミ生の企画によって、校外見学会や合宿に出かけたり、親睦会を開催したりと、みんなで元気に活動しています。



大川ゼミ

大川ゼミは市場経済への理解を促すために、株式投資ゲームを使って、日々の株式市場の動向を通じ、個別の企業経営から経済政策、政治・国際関係等の様々な動きが経済にどのように影響するのかを体感してもらいます(就活情報収集にも役立ちます!)。また、関心のあるテーマをリサーチして、レポートやプレゼン、そして卒論にまで仕上げる力を養成します。外部見学にも積極的です。楽しく社会の仕組みを学び、社会人としてスタートできることが目標です!



川村ゼミ

川村ゼミナールでは、国際法、国際協力の分野を中心に、国際社会で生じる様々な問題について考え、議論します。具体的には、国際的な時事問題を調べて報告したり、テーマを決めてグループワークやディベートを行います。今年の春学期は、持続可能な開発目標(SDGs)、秋学期は、外国人労働者受け入れについてグループワークをしました。また、秋学期にはSDGsの写真展を開催しました。空港見学、防衛大学見学、BBQなども行い、和気あいあいとみなゼミ活動に積極的に取り組んでいます。



小野田ゼミ

国際経済・環境問題で、日本という立場から世界を見据えることを目的としています。また学生が学外評価を通じて自信をつけてもらうために、大学連合のプレゼン大会や日経テストなどへ参加し、実力を発揮出来るよう指導しております。学園祭発表、ディベート大会、新入生歓迎会、合宿など、「よく学び、よく遊べ」がモットーで、行事は多彩です。ゼミ活動を通じて、学生一人一人がうちに秘めた未来への可能性を大いに開花できるよう、努めています。



北島ゼミ

日本や海外の様々な保健問題に関して勉強するゼミです。今年度は、若者の感染者が増加している風疹と梅毒に関する若者目線の教材を作ることを目標としています。また、HIV感染予防に関する啓発活動も行っています。毎年、5月に八王子市で開催される合同学園祭「学生天国」において、八王子市保健所の方々と一緒に、HIVに関する情報提供を行ったり、エイズ予防財団の街頭キャンペーンに協力したりしています。



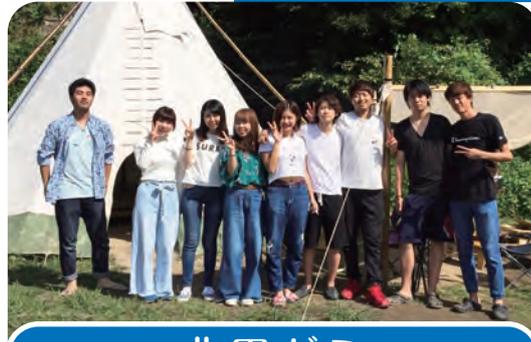
加藤ゼミ

動物病院の経営、日本の中古家電の海外輸出、伝統工芸品の販路拡大、アパートの経営、家業の継承、公的資格の取得、海外留学など、将来の目的や挑戦したいことを異にする学生が、その実現に向けた勉強をし、その成果を報告しあうことでメンバーの知識が増えていくことを目指しています。春・夏季休業中も特訓授業がありスパルタゼミといわれることもあります。素直で、向上心や行動力がある、素敵な学生に恵まれたゼミです。



木暮ゼミ

木暮ゼミでは、選挙での出口調査、模擬投票イベント、学外でのプレゼン大会出場、学園祭での模擬店、八王子コンソーシアムの学生発表会への出場など、かなり多様な活動を行っています。また、企業訪問(JAL・内田洋行)、羽村市での各種イベント(産業祭など)にも関わるなど、学内にとどまらず、学外に積極的に出て行っています。社会人との接点を持ちながら、学生に多くの経験をしてもらいたいと願っています。



北田ゼミ

北田ゼミでは、個人や家族に関する法律問題(家族法)に加え、学生の興味に応じて、民法の財産法、憲法、刑法、社会保障等の関連分野についても勉強しています。本年度は、将来の職業を考えるきっかけとなるよう資格試験の勉強にも取り組みました。まだ新しいゼミなので、みんなで楽しみながら、ゼミの方向性を少しずつ作り上げている最中です。今年度は学園祭で初めて屋台に参加し、フライドポテトの販売を頑張りました！



ジョエルゼミ

This is a new seminar where students who are planning to become teachers will investigate the relationship between current social trends and the educational system. Students will develop an understanding of the role of a teacher in our society. Adolescent Psychology and cognition, learning patterns of teens, and the needs of students outside of the norms, such as ADHD and students who want to withdraw from society, will be considered as students learn to plan effective lessons. CLIL methodology and how it contributes to effective teaching for students entering a global society will also be a focus of research.



木村ゼミ

木村ゼミでは、企業経営に関わるテーマを各自が設定し、ゼミ内での報告と議論を通じて卒業論文にむけ研究を進展させています。ドローンや自動運転を使った最新物流の研究、IoTとデジタル教材を活用した教育の研究、地方銀行のFinTech活用に関する研究、ストリーミング時代の音楽業界の研究、欧州と比較したサッカークラブチーム経営の研究などがテーマとしてあげられています。



内藤ゼミ

内藤セミナーは2018年度、4年生3名、3年生1名、そして2年生14名の総勢18名で、会計学を研究しております。ゼミナールでは卒業論文の作成や財務面での会社経営シミュレーションなどの活動に加え、夏合宿、杏園祭、OB会、冬合宿などの行事があり、「多くの時間と空間を共有することが団結を生む!」をモットーに、勉学にも、行事にも全力投球で活動し、楽しく、厳しく、ウエットな人間関係を築いています。



田中ゼミ

企業経営についての著書の輪読を行い発表と討議を行います。学生らは人前で意見を述べることに徐々に慣れていきます。本年は『58の物語で学ぶリーダーの教科書』をテキストに使用しました。大学コンソーシアム等のさまざまな発表会にも参加しています。コミュニケーション能力を向上させ、ゼミ員の「就活力」を高めることも重要な目的です。



西ゼミ

西ゼミでは、ノーベル経済学賞を受賞したダニエル・カーネマンの『ファスト&スロー』を輪読しています。人間行動のバイアスについて、その規則性を明らかにする行動経済学の代表的な著作です。ゼミ生はいずれも興味深く取り組んでいます。レジュメの作成・報告や議論も、入ゼミ当時とは見違えるほどに上達しました。就職活動もとりあえず落ち着き、今は卒論の完成に向けて奮闘しています。



知原ゼミ

当ゼミでは、租税法を柱にして、社会経済を取り巻く多様な分野の課題を通して、調べる力、考える力、発信する力を養うことを目指しています。また、ゼミの仲間と切磋琢磨することを通して社会人になっても続けられるよき友を得る機会になることを願っています。本年度は、日本経済新聞の連載記事などを使って、税制改正激変の構図、動かぬ個人資産1800兆円、アマゾンエフェクトなどのトピックをめぐり厚く討論しています。



松井ゼミ

日本や米国の政治・福祉・社会保障などを中心に勉強しています。普段のゼミでは、基本的な文献から専門的な研究論文まで幅広く輪読し、担当者による内容報告とそれをもとにしたディスカッションを中心に進めています。それに加えて、自ら調査したり、論理的に議論する力を鍛えるために、ゼミ内でのディベートの練習も行っています。まだ新しいゼミなので、これからも様々な取組みにチャレンジしていきたいと考えています。



半田ゼミ

半田ゼミでは、近現代の日本政治について研究することを目的としています。二年生は、政治学を題材としてプレゼン大会出場に向けたファイルづくりや、政治学に関する書籍の輪読、ニュース時事能力検定の資格取得などをおこなっています。三年生は、時事問題に関するディベートや、卒業論文作成に向けた研究をおこない、毎週、交代で発表をしています。四年生は、卒業論文の添削作業を中心におこなっていますが、各人の就活状況に合わせて指導もしています。



松田ゼミ

日本の文化・法制・政治について、歴史学的なアプローチを通して理解を深め、日本人が創りあげてきた社会の本質を考えることを目的としています。現代社会は電子化された情報が氾濫していますが、人間の手によって作られた生の史料や歴史的景観のなかに身をおくことで、資料の信頼性についてあらためて考えを深め、史料批判や史料操作の方法を学びながら、その知識を活用して卒業論文の執筆ができるよう、指導しています。



藤原ゼミ

私の専門領域は、民法(法人・不法行為法・家族法)です。具体的には公益法人法制、消費者法、祭祀財産の承継などに興味関心をもって研究・教育を行っています。法律の勉強は各種資格試験・公務員試験等においても必要とされるものです。ゼミでは各種試験の対策指導と学問的な深化をそれぞれの希望にあわせて行っています。藤原ゼミには例年、意識の高い学生が所属しており、就職実績においても素晴らしい成果を残しています。



高田ゼミ

2年生15名、3年生10名、4年生11名のゼミです。性格も趣味も勉強の進め方も多様ですが、同級生、先輩後輩とも、歓迎会や合宿を通じて仲が良くなりました。2年次は簿記学習を中心に進め、合間にディスカッションなども行います。3年次からは、会計や経済のニュースを読み込んだり、卒業論文作成のためのテーマを深めていきます。資格の勉強ではなく、社会の動きを知るために、会計学に親しんでほしいと思っています。



マルコムゼミ

My seminar for second year students is initially (third semester) focused on studying or working abroad, which is strongly encouraged for all GCP students. Students not studying abroad in the second semester of their second year (semester four) will need to present a topic each week in English. These topics should be focused on the speciality courses that are taught in English. The objective is to better prepare students to engage with the courses in the advanced studies. Third year students will investigate a topic and present the information. Students will be required to present evidence and discuss questions. We will also consider opportunities for Japanese organizations based on experiences abroad. Third year students may also be expected to mentor other students on study abroad matters. Students may need to plan workshops for Kyorin Festival. Fourth year students will be expected to complete a Graduation thesis in English.



糟谷ゼミ

糟谷ゼミでは、毎年、工場見学に行っています。今年度はシステムキッチンメーカーのNASLUCK(ナスラック鎌倉工場)に行きました。ナスラック鎌倉工場では材料のリサイクル100%を達成するなど、効率化・環境への取り組みなど様々な工夫について丁寧に教えていただきました。日頃、私達は店頭で売られている商品などにしか目がいかないことが多いですが、このようなモノづくりの現場を見ることで、多くの企業の活動を想像してもらいたいです。



三浦ゼミ

国際政治経済学を中心とするゼミです。2年生では、専門的内容に入る前に論理的思考を鍛えるためプロジェクトを通して課題解決力を高めます。3年生では専門的な論文の輪読やアジア各国の国際政治経済を研究調査することを通じて知識の理解に努めます。その後、3年生から4年生にかけて卒業論文の執筆にあたります。夏の合宿では、2年生は宮城県石巻市の被災地、3年生は米国ロサンゼルスにおいて海外合宿を行いました。



長谷部ゼミ

長谷部ゼミは、主に企業組織の内外の社会現象を、産業社会学の観点から勉強しています。単なる企業事例の観察だけにとどまらず、その事例の何がどう面白いのか、社会学的な「ものの見方」にまで掘り下げて学んでいます。個々のメンバーは徐々にそれぞれのキャラを開花させながら、互いに親交を深めつつ、自分たちの興味あるテーマを掘り下げています。比較的独立した雰囲気ですが、皆、和やかな雰囲気で学んでいます。



大山ゼミ

大山ゼミは、今年初めてできたゼミです。ゼミ生は全部で7名です。大半が野球部に所属しているためか、ゼミ生同士大変仲が良く、互いに切磋琢磨して日々勉学に励んでいます。刑法学の主要な論点(被害者の同意等)につき討議を行うゼミです。<2年生・工藤>



斉藤ゼミ

斉藤ゼミでは、資源や環境の問題について学んでいます。個人発表やグループワークのほか、工場見学などもおこない、さまざまな形で資源や環境の問題に触れています。今年のゼミ合宿は金沢市でおこない、研究発表のほか、市内にある施設見学をしました。全ての学年が一緒に勉強するため、同じ学年だけでなく、上下のつながりも強いのが、このゼミの特徴です。先輩たちの後輩の面倒見も良く、勉強だけでなく、さまざまな活動を通して、みんなで楽しく学んでいます。



劉ゼミ

日本社会をよく理解したうえで国境を越えて活躍する人間を育てることを目標とする。政治学、国際政治学の勉強はもちろん、日本社会及び国際社会のさまざまなテーマを取り上げて研究する。たとえば2018年度のテーマは首都圏の華人社会である。ゼミ生の自主企画を奨励する。ゼミ生は勉強チームをつくって毎週英語を自主的に勉強する。毎年新ゼミ生の歓迎会、外国人訪問、学者・留学生との交流会、仲秋親睦会、忘年会等を開催し、ゼミ生同士の友情を深めている。



進邦ゼミ

進邦ゼミでは、3学年が縦割りでゼミナール活動を行っています。キャンパス周辺のまちづくりや、夏合宿で訪れる台湾のコミュニティやまちづくりについての研究を行っています。台湾では、古都台南と首都台北を訪れましたが、現在でも日本統治時代の建物が多く残っており、リノベーションでカフェや博物館などに転用されています。地方創生や再開発が進む日本にも、学ぶべき点が多くあります。



原田ゼミ

2年生、3年生の演習では、日商簿記検定を目指した勉強に励んでいます。4年生の演習では卒業論文の個別指導を行っています。今年度は、2月に2泊3日の日程で、恒例の簿記大会、東京五輪の開催をテーマとしたディベートなど、内容盛りだくさんの冬合宿を行う予定です。今年度の原田研究会は、特に簿記検定や会計ビジネス検定など、会計に関する資格をとるという目的意識をはっきりと持った意欲的な学生が集まっています。



岩隈ゼミ

岩隈ゼミでは、憲法を中心として、幅広く法律を学んでいます。今年度は、新メンバーの中に、思想や哲学が好きな学生がいることもあって、週1回自主ゼミで『人間の条件』という政治哲学の本も読んでいます。法律も哲学も、普段の日常生活で使う言葉とかけ離れていて難しいですが、事件や社会の背景事情や、そういった制度や考え方が形成されてきた歴史を踏まえると、最初は全く意味が解らなかった法律書や哲学書の意味がじわじわとわかってきます。ゼミで勉強する喜びを感じています。折に触れて飲み会や合宿も行っています。去年は香港に行きました。異文化に触れる機会も楽しいです。〈2年・大淵〉



渡辺ゼミ

日本人として必須の東アジア政治・軍事・国際情勢の基礎知識を学んだ上で、時々多様な国際問題について報告や議論を行います。また、実体験を通じた国際センス向上も重視し、年一回は海外合宿を実施しています。知識以外に社会で通用する基礎知力である、情報の収集・評価能力、説明力や討論力等の訓練を重視しています。ゼミの雰囲気は基本的に自由ですが、手を抜いた報告には容赦のないツッコミや「やり直し」が待っています。



京都・ゼミ合宿

「台風一過の京都ゼミ合宿」

半田ゼミナール 2年 豊川 茉実

私たち半田ゼミナールは、9月5日から9月7日の2泊3日で、京都に行ってきました。この合宿は、ゼミナールのみんなと親睦を深める良い機会だと感じていました。また、京都ならではの落ち着いた雰囲気や癒されることを期待しつつ、美味しい食事や、歴史的建造物の観光を堪能したいとも思っていました。

ところが、合宿前日の9月4日に台風21号が日本列島を縦断し、京都では倒木など大きな被害が出たため、前日は「本当に合宿ができるのかな？」と不安でいっぱいでした。実際、台風の影響で二条城や、渡月橋、竹林の道、伏見稲荷大社、清水寺などは一部立ち入り禁止になり、スケジュール通りに行動できないこともありました。

しかし、台風の影響をあまり受けずに済んだ蹴上インクラインや南禅寺では、史跡を見ながら歴史の勉強をすることができました。時間にも余裕があったため、ゆっくりと観て回ることで、沢山の写真も撮れたので、良い思い出が残せたと思います。

そんな中で私が最も印象に残っているのは、1日目の夜ご飯です。もつ鍋で有名な亀八本店を、事前に半田先生が私たちのために予約してくださっていました。

その日は朝6時30分に東京駅に集合だったので、最初はみんな眠そうでしたが、美味しい物を食べていくにつれて会話も弾んでいきました。こうして合宿に参加しなかったら見ることも出来なかったようなみんなの新たな一面を知ることができ、食後にはゼミの一体感が生まれたような気がしました。

最後になりますが、この合宿を有意義に楽しめたのは、合宿先が京都に決定するまでの話し合いのとりまとめや細かなスケジュール設定、新幹線の切符・宿の手配などといった仕事を引き受けてくれた合宿係の竹島夕淑さんと中島彩美さんのおかげです。

そして、引率して度々アドバイスを下さった半田先生、ゼミナールのみんなのおかげです。本当にありがとうございました！



ロサンゼルス・ゼミ合宿

「一瞬だった7日間」

三浦ゼミナール 3年 林野 一成

私たち三浦ゼミナールは、海外でのゼミ合宿として、アメリカのロサンゼルスに行ってきました。8月28日に日本を飛び立ち、10時間ぐらいかけてロサンゼルス国際空港に降り立ちました。空港を出ると、サングラスをかけた背の高い男性が満面の笑みで僕らを迎えてくれました。その人とは、私たちより先に到着していた、ゼミの指導教員である三浦先生です。

アメリカでの生活は、大きな一軒家を借りての共同生活でした。ここでは、共同生活ならではの一人一人の協調性が問われました。みんながそれぞれのペースに合わせて、お互いを尊重しました。朝早くに起きて、近くのスターバックスまで散歩して通いつめたこと、夕食の後、みんなで語り合ったことは、とてもいい思い出になっています。8月生まれの人をみんなで祝った日もありました。そんな最高の時間であったアメリカでの7日間はあっという間でした。

外出する前には、三浦先生の小さな

講義を毎朝必ず聞きました。その講義では、アメリカの現状や、その日行く場所について先生が詳しく話してくれたので、とても理解しやすかったです。ハリウッドの日系人ミュージアムでは、日系人の米国での辛く壮絶な努力の歴史を学ぶことができました。5日目は、大きな岩砂漠と道路しかない、まるで西部劇のようなジョシユア・ツリー国立公園に行きました。空はとても広くて遮るものは何もなく、私はその雰囲気たまらなく好きになりました。

アメリカはすべてが新鮮でした。歩く道の幅、道に生える木、お店の中に売っているものも、すべてが規格外の大きさです。とにかく、なにもかもが大きかったのが印象的です。

ゼミ合宿の間、多くのことをアメリカで見て、学び、そして色々なことを感じることができました。アメリカで感じたことの多くは文章ではとても書き表すことができません。多くの学生にも、アメリカのロサンゼルスという地に一度足を運んでみて欲しいと思っています。

新入生会 懇親会 開催

ゼミナル
連絡会





学園祭

ゼミナール
連絡会

2018
10.6(土)~7(日)



杏園祭をおえて

杏園祭実行委員会委員長 近藤 佳

今年の杏園祭は、昨年度の10563人に対し11202人と639人も増える結果となりうれしい気持ちでいっぱいです。

3年生になった今年、まさか私が委員長を務めるとは思いもませんでした。委員長になり、まず目標にしたことは、来場されるお客様にテーマを知って楽しんでもらうことでした。今年は、年代問わず親しみが持て、人との繋がりを意味する「和」をテーマにしました。このテーマをどう表現すればお客様に伝わるか実行委員会全体で考えました。

スタッフジャンパーを法被にしたり、学内の装飾に日本の文化である書道や華道の作品を部の方々に協力いただき展示して、見ただけで伝わるような工夫をしました。その結果、来場されたお客様から「テーマに合わせた装飾が素敵だった」「テーマと内容の関係が良かった」などの声を直接いただき、私たちの目標が達成された瞬間でした。

何よりも杏園祭を通じてお客様との和を築けたことが最高の宝物です。



ゼミナール活動 紹介発表会

副ゼミ連長 大国 まき

10月6日(土)のゼミナール活動・紹介発表会では、15チームが研究課題報告やゼミ合宿の調査発表を行いました。今回は、その中で国際関係コースの川村ゼミと渡辺ゼミの発表についてご紹介します。

川村ゼミからは「ロヒンギャ問題」についての研究発表が行われました。一見日本にはあまり関係のない問題に思えますが、例えば群馬県では手厚い援助をしており、個人としてもUNICEFの募金やUNHCRの難民支援に協力することは可能とのことでした。

渡辺ゼミは「中国は覇権国になり得るか」というテーマの発表でした。中国はPKOへの派遣拡大等により国連内での影響力を増しており、また、AIB設立の主導や一帯一路計画等により着実に力を付けています。発表ではこうした点から中国が覇権国になる可能性は高いと結論付けていました。

国際関係とは異なる分野を学んでいる私には、今回の発表会はとても刺激的でした。そして、国際関係に限らず日常の様々な事柄にもっと興味を示し深く調べて自分の考えを持つことで、視野が広がっていくのだと思いました。



杏会会長
井澤 吉男

早春の候、皆様におかれましては、益々のご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。この度、平成三十年度総合政策学部杏会会長に仰せつかりました井澤と申します。今後とも会員の皆様、役員、事務局、教職員のお力を頂きながらも一生懸命活動してまいりますのでご協力を賜りますようお願い申し上げます。

4年生は学生生活も残り少なくなってきました。残り少ない学生生活を悔いなく精一杯過ごして下さい。卒業するまで3カ月間は、社会人になっ

て行くために基礎づくりにあてていきましよう。学生生活の4年間は勉強やクラブ活動等が中心の生活をしてきましたが、これからは生活が一変します。地域や社会に求められる人間にならなければなりません。そのためにも自分自身何ができるかを考えていかなければ取り残されてしまいます。

普段から物事の本質を見極める力をつけなければなりません。そのためにも、勉強だけはしっかりとやり、普段から考える事を心掛けて行くことが大切です。社会人となれば、学生時代に許された事が許されなくなり、一人の大人として社会は見えていきます。今後は大人として最低限のマナーを守るといった事を徹底して人間力を身につけていかなければなりません。社会（就職）に出ていけば、希望しない部署・やりたくない仕事等出てくると思

いますが、今後の仕事上に必ずプラスになると思っており組みんで下さい。一生懸命取り組んでいけば、必ず誰かが見てくれて、手を差し伸べてくれます。人生はチャレンジです。諦めない強い気持ちを持つていきましよう。社会人になるまでの短い時間ではありますが、悔いのない学生生活を送り、一日一日を大切に使用ていきたいと思います。そして家族、友人、知人、地域の方や社会に貢献できる人生を送って下さい。

最後に杏会として学生達の、今後の人生の夢を具現化できるためにも協力を惜しまず支援していきたくと思っておりますので、ご理解ご支援をお願い申し上げます。

総合政策学部 杏会総会 開催

2018年6月9日



「杏門会」は、平成十四年に総合政策学部
の名称変更に伴い、「社会科学部卒業生の
会」から改称しました。

杏門会の「杏」は杏林大学の頭文字から
いただき、「門」は一緒に学んだ仲間を表し
ており、杏林大学とともに学んだ場とし
て、この名称が相応しいと考えました。

卒業生の数も9800名を超えており、
多くの卒業生とご父兄のご厚意により運営
しております。

平成二八年四月から八王子キャンパスの
学部は、井の頭キャンパスに移転して三鷹
に集まることとなり、母校の更なる発展が
期待されます。

当会も母校と卒業生の一層の活躍に寄与
できるよう活動を進めていくつもりです。
みなさまのご理解とご協力をお願い申し
上げます。

事務局 平本 実

卒業記念パーティー開催のご案内

2019年3月17日(日)
卒業式当日

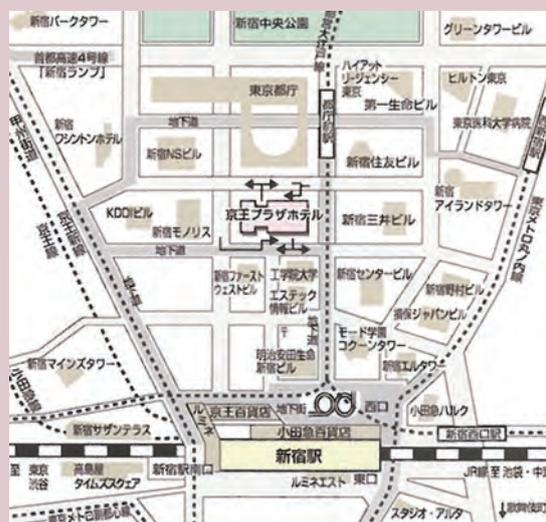
卒業記念パーティー
18:00開場／18:30開宴

京王プラザホテル

〒160-8330

東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL.03-3344-0111(代表)



- 2019年3月卒業、9月卒業予定の学生と保護者の皆さまは卒業パーティーに無料でご出席いただけます。
- 卒業パーティー会場の京王プラザホテルには、更衣室(7階)があります。宅配便(3階)を出すことも可能です。
- 3階のメインクロークをご利用ください。
- アルコール類の提供がございます。お車でのご来場はお控えください。

編集後記

今年度も無事に『杏ジャーナル』を皆様にお届けできるとなりました。ご執筆いただいた方々、ご協力いただいた方々、本当にありがとうございます。この場をお借りして心から御礼申し上げます。

今回から、より多くの学生を紙面に登場させようと思ひまして、成績優秀学生、長期の留学を経験した学生、地域活動で活躍する学生、そして就職活動を終えた学生などを紹介しています。ぜひとも、このキャンパスで精一杯、頑張る学生たちの姿をご覧頂ければと思います。

さて、八王子キャンパスから井の頭キャンパスに移転して、早くも3年の月日が流れました。この3月に卒業する学生たちが、八王子キャンパスを知る最後の学生となります。キャンパス移転後、受験生の数も増加し、大学や学部の認知度も上がってきました。とはいえ、今まで以上に、学生たちにとって、このキャンパスが「大切な場所」となるよう、われわれ教員も一丸となって努力していきたいと思っています。

今後とも、杏会の皆様のご協力をお願いする次第です。よろしくお願いいたします。

杏ジャーナル 編集委員長 木暮健太郎

劉 迪

北田 真理

松井 孝太

